

【派遣団員としての抱負】

私は広島派遣団員として戦後 70 年という節目の年の平和記念式典に参加することができ光栄に思います。私達の生活は戦争もなく、豊かで平和な生活を送ることができています。そのため戦争や原爆投下の恐ろしさ、悲惨さに対する記憶がうすれてきてしまい、平和であることが当たり前になってきています。だからこそこの機会に戦争に対する悲惨さ、原爆投下の恐怖、多くの人命を失われたことへの悲しみなどを学んでいきたいです。そして学校の友達、地域の人々に改めて戦争の悲惨さ平和である暮らしに対するありがたさ、命の尊さを伝えていきたいです。

【平和記念資料館について】

広島平和記念資料館は、被爆者の遺品や被爆の惨状を示す写真や資料を収集・展示するとともに、広島市の被爆前後の歩みや核時代の状況などについて紹介しています。資料館は、東館と本館の二つに分かれています。今回東館では、リニューアル工事中のため見学できませんでした。本館では、被害によって展示が分かれているため分かりやすかったです。また、常設展示や遺品等の詳しい情報が聴ける 17 カ国語の音声ガイドの貸し出しや目の不自由な人のための点字ブロックもあります。さらに、解説の文は全て日本語の後に英語に翻訳されています。資料館は世界のどんな人にも分かりやすいような工夫がされていました。

【平和記念資料館を見学して心に残ったこと】

私は、平和記念資料館で見た、原子爆弾の被害のうち熱線による被害について発表したいと思います。

原子爆弾から放射されたとても強烈な熱線は、爆心地から、半径 2、3 キロメートルもの範囲にいた人にやけどを負わせました。また、半径 1、2 キロメートルにいた人々は、体の内部にまで障害を受け、このために、数日のうちにたくさんの方が亡くなっていきました。また、熱線により、建物の大火災が起きました。とても広い範囲で火災が起き、三日ほどたって火災は収まったとのことでした。

原子爆弾から放射された熱線は、広い範囲に被害をもたらしました。熱線がいかに強力だったかよく分かりました。

爆風、熱線からののがれ、無傷であっても、放射線により、苦しみ亡くなる人々の写真は心につきささる物が数多かったです。

放射線は、受けた量によって体に現れる症状が異なりますが、どれも、白内障、白血病、悪性腫瘍などどれも、後障害が残ったり死に至ることが多いことは、原子爆弾から放出される放射線の恐ろしさを感じることができました。

また、爆風、熱線を見て、放射線だけにある相違点は、佐々木さんのように、月日が経過してから、発病するケースもあり、佐々木さんが折り鶴を残したように、この世に残していけることが数多くあることが分かりました。

広島平和記念資料館にある三つのコーナーのうちの一つ「爆風コーナー」には様々な爆風にかんする資料がありましたが、私が心に残った爆風にかんする資料の中にこんな文章がありました。

爆風の影響によって、きぜつする人や負傷する人、家におしつぶされて圧死する人、また身体に異常を感じて病院に行くと、身体からガラスの破片が発見される人が出てくるなどです。

これを見て思ったことは、風だけでここまでの被害をこうむるのかということです。また、これを読んで改めて原爆のこわさを感じました。

【平和記念資料館を見学して学んだこと】

平和記念資料館で、写真や模型などのたくさんの展示物を見ることにより多くのことを学びました。

中でも、広島で被爆された直後の方々を再現した人形からは戦争の悲惨さを、原子爆弾による被害を距離で表した図からは核兵器の破壊力とそのおそろしさを、学ぶことができました。

そして、資料館で学んだ多くのことから、平和の尊さを改めて強く実感しました。今ここにある平和を、これから先ずっと、大切に守っていきたいです。

以上